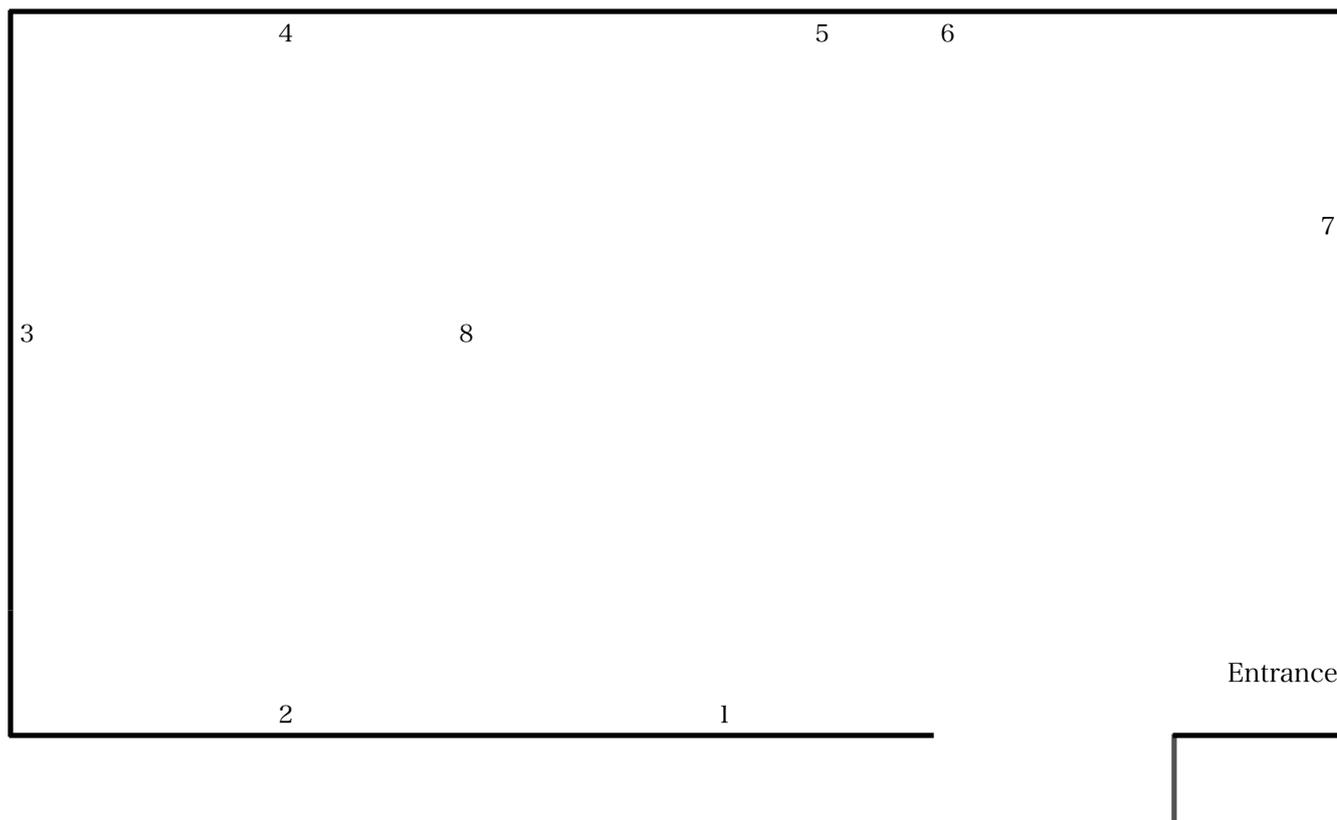


亀元円展「べつのがわからみる」 2023.7.9(sun) - 2023.7.22(sat)



No	作品No	作品名	制作年	サイズ	素材/技法	価格(税抜)	価格(税込)
1	2308-01	Eyes	2023	150×300×30	樟 蝋	¥40,000	¥44,000
2	2308-02	Flower	2023	190×190×120	樟	¥60,000	¥66,000
3	2308-03	山	2023	190×190×120	樟 蝋	¥120,000	¥132,000
4	2308-04	Bird	2023	290×200×110	樟	¥70,000	¥77,000
5	2308-05	Form 1	2023	300×80×70	樟	¥40,000	¥44,000
6	2308-06	Form 2	2023	400×70×70	樟	¥50,000	¥55,000
7	2308-07	Form 3	2023	1550×80×80	樟	¥100,000	¥110,000
8	2308-08	to see from the other side	2023	520×1070×500	樟	¥300,000	¥330,000



亀元円 KAMEMOTO tsubura

1992 東京都生まれ

2016 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科 卒業

2018 武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース 修了

[主な展覧会]

2023

「亀元円-べつのがわからみる-」展 galerieH/東京

「KEAT2023-第4回小砂環境芸術祭-」 那珂川町小砂地区/栃木

2022

「亀元円-Somewhere Sometime Something-」展 galerieH/東京

2021

「亀元円-SAVAGE-」展 galerieH/東京

2020

「亀元円 -Hidden Place-」展 galerieH/東京

2019

「FIRE WORK」展 ROJIBI/東京

2018

「平成29年度 第41回東京五美術大学連合卒業・修了制作」展 国立新美術館/東京

「平成29年度 武蔵野美術大学卒業・修了制作」展 武蔵野美術大学美術館/東京

2017

「でんちゅうストラット」展 小平市平櫛田中彫刻美術館/東京

「彫刻と対話法Ⅲ 思いどおりをする、をするか」展 府中市美術館/東京

「LOST SIDE STRIP ー失われた路側帯ー」展 ミツバコウサクショ/東京

2016

「INTEN」 武蔵野美術大学/東京

「平成26年度 第39回東京五美術大学連合卒業・修了制作」展 国立新美術館/東京

「平成26年度 武蔵野美術大学卒業・修了制作」展 武蔵野美術大学美術館/東京

2015

「逸脱展」 武蔵野美術大学/東京

「森に還る」 千住芸術村/東京

2014

「いそがし!」 千住芸術村/東京

2013

「nanaten」 UPSTAIRS GALLERY/東京

「小平アートサイト2012：点在する今」展 小平市中央公園/東京

[主な受賞]

2018

「平成29年度武蔵野美術大学卒業・修了制作」展 優秀作品賞

2015

「第22回公募展 木彫フォークアートおおや」入選



<https://bit.ly/2ZzgcOP>
Artist Page_亀元円



<https://bit.ly/31nqJ30>
Online Store_亀元円

「べつの がわから みる」

内と外の関係性や影について別の側面から物質や空間を捉え、可視化する方法を彫刻を通して探っています。

例えば絵画は、キャンバスに絵の具が塗られているのか、キャンバスの裏から絵の具が染み出しているのか。

古代の洞窟に線刻されたその線は岩の内側と外側のどちらに存在しているのでしょうか。

また、内と外の関係だけでなく、影について——例えば、自分の後ろにある木々が風に揺れ、その影を見た時、実際にその木を見るという経験よりも、私たちに周囲の空間を新たに認識、理解させるのではないのでしょうか。

世界を見るための方法として彫刻が必要なのではないかと思います。

彫刻は私たちの内側（目を瞑ると出てくる暗闇）に形を持たずに存在しています。

何かをつくることは、その瞬間までこの世界になかったものに形を与えて外側の世界に出すことです。

彫刻は私たちが生きているこの世界や状況を、別の側面から捉えて世界に生み出す試みのようなものだと思います。

そのようにして生まれた彫刻は、この世界の新たな見方を示すものではないのでしょうか。